

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570102362		
法人名	社会福祉法人 松涛会		
事業所名	グループホームフロイデ彦島		
所在地	山口県下関市彦島西山町三丁目12番1号		
自己評価作成日	平成 25年 7月 15日	評価結果市町受理日	平成25年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=35
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 25年 8月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念「自分らし 穏やかに 生きがい 好き(よろこび)」のもと、入居者一人ひとりが自分らしく生活できるように支援しています。 法人・施設の理念「あなたの喜びが、私の生きがいです」「地域密着型総合福祉施設として、地域に貢献します」のもと、地域の方との連携を深め、認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できることを目指しています。 又、地域の方と交流することにより、認知症の理解に繋がるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海が見える開放的な環境の中で、ゆとりある空間に配置されたソファや椅子を活用して、生活の中で利用者同士でも会話を楽しむことができるよう配慮され、利用者が笑顔で晴々とした表情をしえられる様子が伺えました。 事業所は地域との連携として山口健康応援団の認定を得て、学生の体験学習や利用者との交流の場としておられる他、防災拠点施設としての役割を持ち、地域総合防災訓練に職員と利用者が一緒に参加して協力体制を築いておられます。利用者は保育園児や小・中学生との交流や近隣住民との日頃からの付き合い、法人に来訪されるボランティアの人たちとの交流を通して地域とふれあい、穏やかな生活を送ってられます。自己評価の過程の中で話し合われた課題として、日常の利用者の様子をより分かりやすく家族に伝えるために、利用者np個人アルバムをつくることを検討され、実現しておられ、家族の安心につながるケアに取り組まれています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく、穏やかに、生きがいを、歓喜(よろこび)に」を理念に掲げ、研修時又勉強会においても意識作りに努めている。朝のミーティング時に、出勤者全員で唱和することで確認し、1日の業務をおこなっている。	理念を事業所内に掲示し、申し送り時に理念のカードを持って唱和し、共有している。その人らしさや思いを大切にし、ケアプランにも反映させて、理念の実践にむけて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(地域の防災訓練、夏祭り、マラソン大会の応援等)に、事業所として参加している。又小学生・中学生を招いたり、保育園とは、お互いに交流を図っている。	地域の防災訓練や海峡マラソン大会の応援などに事業所として参加している。山口健康応援団の認定を受け、学生の職場体験や実習の受け入れを行っている。保育園のお雛様やお芋パーティなどの行事に利用者と一緒に参加したり、園児が事業所の行事に来訪して交流している。法人施設へボランティア(音楽会、コーラス、健康体操など)の来訪がある他、事業所で行った脱水症の研修会に地域の人が参加している。近所の人に行事の時のおすそ分けを持っていたり、柿などの差し入れがあるなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生を招待したり、中学生の職場体験を受け入れ、実際に認知症の方とふれあいを持つ事により、理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価を実施する意義は、全体会議にて説明している。また、職員が自己評価表に記入する事により、自分自身を客観的に見る事が出来る。改善点は、管理者を含めた全員で共有し、ケアに活かしている。	管理者が評価の意義を全体会議や申し送り時に説明している。全職員に配布した自己評価をするための書類に各職員が記入し、管理者がまとめて回覧している。気付きや分からないことをユニット会議で話し合っケアの振り返りと捉え、利用者の個人アルバムを作り、日ごろの様子を家族に伝えるよう改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内にて事業所より行事報告、取り組み状況等説明している。会議において出された意見やアドバイスについては、全体会議で話し合いサービス向上につなげられる様にしている。	新たに自治会長の参加を得て年6回開催し、近況報告、行事報告などを行い、法人行事への参加の呼びかけや、避難訓練などについて話し合いをしている。家族の協力を得ての外出や外食、地域行事への参加など、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者とは不明・困った点、又事業所の実情を伝え相談、情報交換をしている。地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、相談・アドバイスを受けている。議事内容については、議事録をもって定期的に報告している。	市担当課には運営推進会議の資料を持参した時や電話で相談し助言を得たり情報交換をするなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは運営推進会議時や市内で開催される認知症を支える会の研修時などで情報交換し、助言をえている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを事業所内に設置し、全職員が閲覧、又会議等で勉強会をもち理解し、実践につなげている。玄関の施錠は、時間を決め行っている。又、浮上した問題点についても、家族の了承を得る事を含め、最善策・改善策について検討し、実施している。	マニュアルがあり、身体拘束防止対策委員会が年1回、内部研修を行って全職員は身体拘束をしないケアについて正しく理解して、拘束をしないケアを実践している。スピーチロックで気になる場所は、その都度管理者が注意をしたり会議で話し合っている。玄関は10時から16時は施錠しておらず、外出したい利用者とは一緒に外出したり、その人に合わせた対応を工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の開催、事業所内に設置された虐待防止マニュアルや配布された資料を、全職員で回覧している。ケアカンファレンスにおいても、虐待に繋がる行為等は検討し、日々のケアに生かしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修等で学ぶ機会があり、又管理者から職員に説明も行われている。必要性のある利用者については、管理者から対象者に、パンフレットを渡す等の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。契約時に1つ1つ読み上げ説明している。その際、不安や疑問については、その都度訪ね、理解・納得してもらえるよう十分説明している。説明者以外は、個人ファイルの契約書を見て、内容を把握するように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口を記載しホーム事務所に掲示、全職員も周知している。家族面会時に意見・要望を聞き、運営に反映させている。各ユニットに意見箱(聞聞箱)を設置し、気軽に意見・要望を出してもらえるようにしている。	相談、苦情の受付体制や第三者委員、処理手続きを定め、事業所内に掲示し周知している。意見箱(聞聞箱)を設置している。利用者の個人アルバムで日頃の利用者の様子を伝え、家族から意見を聞く他、運営推進会議時や面会時、電話などで意見を聞いている。ケアに対する要望にはその都度対応しているが、運営に関する要望や意見は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりが、意見・提案を出せる様に用紙を用意している。施設代表者も参加する全体会議をはじめ、ユニット会議でも話し合い、直ぐに実践できるようにしている。	日頃から職員が用紙に意見や提案を記入して事務所に掲示している他、全職員が参加する全体会議(月1回)やユニット会議(月1回)に代表者も参加し、職員の意見や提案を聞いている。出た意見や提案は法人会議の場や医師などの専門家とも検討して、運営や業務の改善に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員間で意見、情報交換も行われ勤務体制をはじめ、働きやすい職場環境を維持できている。個々の長所・能力を認め、それに合わせた役割、助言があり、自身を振り返る機会も設けている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内・外や法人内の研修に、職員が参加する機会がある。その研修後の発表で全職員が内容を共有し、把握している。	外部研修は情報を伝え、段階に応じて業務の一環として参加の機会を提供している。参加後は復命し、法人の本部で発表している。月1回ある法人研修に参加し、受講した職員が講師となって全体会議で共有している。内部研修は感染症、脱水、食中毒などをテーマに月1回開催している。新人は法人の研修を受けるとともに、2ヶ月間リーダー職員の指導を受けている。管理者は職員が働きながら学べるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や、他施設と研修活動を通じて交流している。又法人内のグループホームとも実習等で行き来があり、意見・情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人との時間を多くとり、本人の発言・思いをしっかり受け止め、困難な場合は、家族やケアマネからの聞き取りを参考にしている。又センター方式を活用し支援して欲しい事を気づける様にしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に話をしっかり聞き、グループホームで出来る事・出来ない事をきちんと説明する事で安心してもらい、より良い信頼関係を築ける様に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人、家族から意見・要望を聞き、必要としている支援を見極め、その上で入居後考えられる状況変化(杖・車椅子の使用等)について、他サービスの紹介を含め説明、対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、本人の時間・ペースに合わせて、意向・要望を取り入れ、出来る事は一緒に行っている。その時職員は教えてもらう気持ちで接し、職員本位にならない様に努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いも大切にし、入居してからも本人と寄り添えるように、誕生会等への参加について案内している。面会時等には、その都度近況報告し、その上で、本人がどの様に過ごしたいのかを共に考え、より良い支援が出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会も受け入れている。家族とは以前から通っていた所も一緒に出掛けたり、外食、外泊も出来るようにしている。	家族や親戚、知人の来訪や、電話や手紙、年賀状のやりとりを支援している。家族の協力を得て、外出や外食、外泊、墓参り、馴染みの美容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が談笑ができる空間を作ったり、食事の席も工夫している。1つテーブルを囲んで一緒に時間を過ごしてもらい、自然と関われる環境づくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が、契約終了しても、必要に応じて相談支援をしている。他施設に入所された方を訪ねたり、入院先を見舞ったり、本人は勿論、家族とも関係を保てる様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとゆっくり関わる機会を持ち、その中で思いを汲み取る様に努めている。家族からも話を聞きケアに活かしている。又記録に残し、職員全員で共有している。困難な場合は会議やセンター方式を活用し、本人本位に検討している。	センター方式のシートを活用して、日々のケアの中で職員が把握した思いや意向や、家族から得た情報を記録して共有している。困難な場合を含めてカンファレンスで本人本位に検討し、1年に1回、シートを見直して思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしは本人や家族、ケアマネから情報を収集し、職員全員が把握できるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日24時間の様子をふれあい記録に記入している。状態の変化等が見られた時は、記入時に筆記用部の色を変える等工夫し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの時は本人・家族等の意見を聞き、ケアプランを作成している。短期プラン終了時には状況を家族に伝え、現状に即したプランを作成している。	利用者の担当職員と計画作成担当者が中心となって、本人や家族の意見や要望、主治医の意見を参考にして、カンファレンスで全職員の意見を聞いて介護計画を作成している。毎日の記録をもとに月1回集計し、評価してモニタリングを行っている。短期計画は3ヶ月から4ヶ月、長期計画は1年に1回見直しを行い、状態に変化が生じた場合は家族の了解を得て臨時プランを作成するなど、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ふれあい記録・バイタル表・排泄記録・食事摂取量は個別で作成、個人別にファイルがある。記録は職員全員が共有している。又実施状況もケアプラン作成、見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族に、要望があればメールで近況を報告している。家族を巻き込んでの、外出支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を兼ねて、入居者の友人を訪ねたり、又歩いて近くの店に買い物に行き、楽しめる様支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホーム主治医について説明、同意を得ている。月2回の主治医の回診が有り、近況報告しており、その他随時電話・メールで報告、相談できる体制をとっている。又本人・家族の希望があれば、以前からのかかりつけ医の受診も可能で、情報共有している。	本人や家族の納得を得て協力医療機関や専門医をかかりつけ医にしている。協力医療機関から月2回往診があり、訪問看護師が週3回来訪して、24時間の見守り体制をとって、適切な医療を受けられるように支援している。関係者とメールや電話、メモなどで情報交換を行い、確実な服薬を支援できるよう取り組んでいる。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回、訪問看護師が来所、相談出来ている。又、電話・メールで連絡が取れ、緊急時も適切な支援が得られる様になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報を提供・交換し、早期退院出来る様努めている。又、退院時は職員が直接病院関係者と情報交換し、適切なケアを提供出来るように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後に今後の方針について家族と話し合っている。状況が変化した場合には、その都度主治医に報告・相談している。同時に家族等も話し合っている。	指針があり、入居時に事業所でできることを家族に説明している。実際に重度化した場合は、主治医の意見を聞き、家族の意向を確認しながら、緊急時の搬送先や移設を含めて話し合い、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット・事故報告書を作成し事故対策委員会に報告している。事業所内においても、その都度原因の究明をし、予防・再発防止について、検討改善に取り組んでいる。救急隊員によるAED講習等の開催、緊急対応マニュアルを各ユニットに常備し、応急手当等に実践力を身につけている。	ヒヤリハット・事故報告書を作成し、ユニット会議で検討して、一人ひとりの状態に応じた対応に取り組み、法人の事故対策委員会に報告している。委員会で月1回事例検討を行う他、事業所でも年1回分析結果を検討して事故防止に取り組んでいる。消防署の協力を得て救急救命訓練やAED訓練を行い、内部研修で交通事故防止DVD研修を行っているが、応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施については検討中であり、全職員が実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立ち合いの下、避難経路の確認、消火器の使用等方法、夜間想定を含め避難訓練を実施している。運営推進会議等を通して地域との協力体制を築いている。	年2回消防署の協力と近隣住民の参加を得て、法人施設と合同で夜間想定を含めて避難訓練、消火訓練を行い、事業所独自でも防災機器の取り扱いや誘導訓練、備蓄品の確認を行っている。運営推進会議に自治会長の参加を得て検討し、地域総合防災訓練に職員と利用者が参加している他、防災拠点施設として地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている職員間の会話も入居者にわからない様に配慮している。	内部研修や日々の業務の中で話し合い、名前の呼び方やトイレ誘導などに配慮し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が答えやすく、意思表示しやすい様な働きかけをしている。又言葉と思いが違っている場合は本人からのサインを見落とさず、思いに添える様に努めてる。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプラン実施を含め、本人の意思・希望を尊重し職員側の都合にならない様にしている。自己決定が困難な方は、状況判断し、思いに添える様支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室に本人持ちの鏡、化粧品を持たれている方もおり、洗面所にも鏡を設置し自身で身だしなみを整えられる様にしている。自分だけでは困難な方も本人の好みに合わせた衣類選択し希望に添える様な支援をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや状態に合わせ、苦手な物は変更し、刻み・ソフト食等形態も工夫している。食器も複数用意し、料理に合わせて使用している。職員も同じテーブルで一緒に食べ、音楽を流しながら、ゆったりとした雰囲気ですべてしている。一緒に食器を洗ったり、拭いたりしている。	三食とも法人の配食を利用している。一人ひとりの状態や好みにあわせて形状を工夫して提供し、利用者は職員と一緒にテーブルで音楽を楽しみながら食事をしている。行事食(おせち料理、七夕のそうめん、開設記念日の花寿司、バレンタイン、クリスマスなど)や赤飯の日、誕生日のケーキづくり、かき氷など食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりバランスのとれた食事になっている。食事量・水分量は記録し、職員全員が把握している。食事量が少なくなった方には高カロリー食品を提供するなどの支援をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に合わせた器具を使用し、起床時及び毎食後口腔ケアしている。自分で行える方も補助し清潔保持に努めている。義歯は毎日夕食後に預かり洗浄消毒している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方に合った方法を職員間で話し合い、夜間と昼間の対応を変える等の支援している。排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握した上で、意思・サインを見逃さないようにしている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、その人のサインを見逃さないようにして声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳・ヤクルトの飲用をはじめ、水分補給・運動を取り入れ、自然排便を促す様努めている。食物繊維を摂取している方もおり、一人ひとりに合わせた予防にも取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	現状は2、3日に1回のペースになっているが出来るだけ本人の希望に添って入浴している。季節によってはしょうぶ湯やゆず湯にし、入浴を楽しんでもらっている。	毎日13時30分から16時まで入浴が可能で、利用者の希望に添って入浴できるようにしている。季節の柚子湯や菖蒲湯を楽しみ、一人ひとりの状態に合わせて二人体制で支援をして、ゆっくりとくつろげるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態を考慮し、メリハリをつけている。希望や体調により、日中も臥床してもらっている。夜間においても寝具、パジャマ等に配慮し、室温・照明等も考慮して、安眠できる様に支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の管理ケースを設け、処方箋をすぐに確認できるようにしている。又、提携薬局の薬剤師による管理指導を受けている。日々の処方薬も個人別・時間別に分けセットしており、服薬時は、職員間でダブルチェックを行い、誤薬防止に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、ケアプランに反映させている。その時々により、読書・家事・季節毎の飾りつけを職員と楽しんでいる。出来る事・好きな事で、気持ちの張り合いや喜びを持って、日々を過ごせる様、支援している。	豆まきやひな祭り、七夕、夏祭りなどの行事、新聞や旅行パンフレット、本、雑誌を読んだり、体操、茶碗拭き、配膳、モップかけ、洗濯物干し、草取りなど、一人ひとりが張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や声かけにより、1日1回ホーム外に出かける様にしている。季節毎の行事(初詣・花見・保育園訪問等)で職員と外出したり、家族の協力で、希望の場所に出掛けられる様支援している。	初詣、花見、バラ園見学に出かけ、法人の文化祭やコーラス、朗読会、音楽会、お月見などの行事への参加、保育園への訪問、家族の協力を得ての外出の他、本人の希望を聞いて1日に1回は外出できるよう、散歩や買い物、ドライブなどの支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望(安心)の為、家族同意の上、支障のない金額を置いている方もいる。行事や外出の際、一人ひとり財布を持ち、お金を使える場面もあり準備、支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望があれば、家族や大切な人に電話できる様に支援している。手紙も書ける様に支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を大きくとっており、外の景色を眺める事ができる。自然の光で季節を感じながら過ごす事が出来る。室内も照明や音等配慮し、飾りつけや置物で、季節感が感じられる様工夫している。	大きなガラスに囲まれた共用空間は開放感があり、海を隔てて遠く九州まで臨む風景や、中庭の木々の様子を楽しむことができる。職員と利用者が一緒に作った季節の作品を飾り、大型テレビやソファ、椅子やテーブルを配置し、ゆったりと思いいくつろぐことができるよう工夫している。温度、湿度、換気にも配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にも小さなスペースがあり、椅子や畳を置いていて、好きな所で過ごせる様工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人の使い慣れた物を持って来てもらっている。テレビ・タンスや仏壇等本人が落ち着け、居心地よく過ごせる様工夫している。	ベット、机、椅子、ソファ、タンス、整理棚、衣装かけ、テレビ、鏡、仏壇、家族の写真、時計、衣類、化粧品など、本人の使い慣れたものや好みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人で静かに本を読んだり、好きな事が出来るスペースを確保している。トイレの表示も分かりやすく、安全に行動できる様工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名： グループホームフロイデ彦島

作成日： 平成 25年 11月 25 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけていない。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける。	勉強会や研修会を開催し、全職員が応急手当や初期対応の知識・実践力を身につける。 消防署等の協力を得て、再度救急救命訓練やAED訓練を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。